

肝細胞癌に対する重粒子線治療の概要

プロトコール番号:1802-1

治療プロトコール	肝細胞癌に対する重粒子線治療 1802-1
対象	既存の根治的治療が困難な肝細胞癌
治療方法	総線量 48.0 Gy (RBE)/2 回(1 日 1 回、週 2 回照射法) 肝門部型、消化管近接型:60.0 Gy (RBE)/12 回(1 日 1 回、週 4 回照射法)
適格条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 肝 dynamic CT または肝 dynamic MRI にて早期相で高吸収域、後期相で低吸収域に描出され、臨床的に肝細胞癌と診断、または組織学的に肝細胞癌と診断されている</li> <li>2. 肝 dynamic CT または肝 dynamic MRI で測定可能な病変があり、腫瘍の最大径が 12cm 以下または治療体積の最大径が 15cm 以下</li> <li>3. 単発または複数であっても同一照射野内で治療可能である(ただし治療体積の最大径が 15cm 以下)</li> <li>4. 対象病変以外に肝内病変を有し、それが他治療で治療可能なもの</li> <li>5. T1-4N0M0</li> <li>6. Child-Pugh score が 9 点以下 (grade A, B) ただし重粒子線治療により肝不全を来すリスクが高い場合には、カンサーボードにより適応を判断する</li> <li>7. Performance Status(ECOG 基準) 0-2</li> <li>8. 本人に病名・病態の告知がなされており、患者本人から文書による同意が得られている</li> <li>9. キャンサーボードで、重粒子線治療の適応ありと判断されている</li> </ol>
不適格条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床的標的体積に消化管が接する</li> <li>2. 当該照射部位への放射線治療の既往がある</li> <li>3. 臨床症状のある間質性肺炎又は肺線維症を合併している</li> <li>4. 照射領域に開放創や活動性で難治性の感染、炎症疾患を有する</li> <li>5. 他臓器に活動性の重複癌を有する ただし、根治治療により治癒と判断された場合、もしくは治癒が見込める場合を除く(もう一方の悪性腫瘍の治療先行を推奨)</li> <li>6. 門脈本幹、総肝管に及ぶ腫瘍塞栓を有する</li> <li>7. 治療抵抗性の腹水がある</li> <li>8. 高度に発達した肝外門脈側副血行路を有する門脈圧亢進症がある</li> <li>9. 治療を要するか、治療困難な胃または食道静脈瘤を有する</li> <li>10. 妊娠または妊娠している可能性がある。</li> <li>11. 医学的、心理学的または他の要因により不適格と判断された場合</li> </ol>
治療の種類	先進医療